

タイトル「カフェテリアでお腹いっぱい」 C1240612 木村脩斗

問題「学外の人にうらやましいと思われるようなカフェテリアを提案する」

私は普段仲の良い友人2人とカフェテリアで昼食をとっているのだが、そのうちの1人がよく「カフェテリアのメニューは量が少ない」と口に出している。私は学食の量に不満はなかったし、そんなことは今まで思いもしなかった。そこで彼の行動を観察してみることにした。すると、彼はカツカレーの大盛りや麺類の大盛りなどボリュームのあるメニューしか選んでいないことに気が付いた。そこで私は「定食や丼ものは食べないのか」と聞くと、彼は「量が少ないから食べない」と答えてくれた。

私は、公益大のカフェテリアをよりよいものにし、学外の方にも興味をもってもらう方法を考えた。まず、私の友人を例に考えてみる。彼の顕在的ニーズは「カフェテリアのメニューの量を増やしてほしい」だろう。彼は、学食の量が少ないことからメニューの選択肢の幅を自ら狭めていた。また、彼以外にも男子生徒や男性教員を中心に学食のボリュームに対する要望を抱いている人はいるかもしれない。そこから、私は「カフェテリアでお腹一杯食べたい」という潜在的ニーズを考えた。これらのことから、「カフェテリアのメニューの量の選択肢」を課題として定義する。

次に、プロトタイプの実作に移る。私の考えたコンセプトは、「誰が来ても満腹になれるカフェテリアの実作」だ。具体的なプロダクトとしては、カフェテリアに「大盛

りのサブスクリプションサービス」や「食べ放題パス」の実装を行うことだ。

まず、大盛りのサブスクリプションサービスについてだが、これは月額料金を払えば一か月好きなメニューを大盛りにできるというサービスだ。購入者はサブスクリプションを利用中だとわかるカードをスタッフに見せるだけで、いつでもメニューを大盛りにすることができる。もちろん、毎回券売機で大盛りの食券を買うよりもお得に食べることが可能だ。

また、同時に食べ放題パスの実装も開始する。これは、券売機で「食べ放題」と書かれた食券を購入するだけで一日中好きな食券を何回でも購入することができるというサービスだ。大盛りでお腹いっぱい食べてもいいし、量は少なめにして複数種類のメニューを食べるといった使い方もできるだろう。大盛りのサブスクリプションサービスは主にいっぱい食べたい人向けに、食べ放題パスはそれ以外の学生や一般の方向けにもっとカフェテリアを利用してほしいと思い考案した。

期待される効果としては、男性を中心にカフェテリアの利用が増えると考えられる。今までメニューの量の少なさからカフェテリアを利用していなかった人や、利用はしていても自宅からお弁当などを持ってきていた人が満足できるようなカフェテリアになるのではないだろうか。公益大生が不満なく満足に利用できるカフェテリアなら、学外の人にうらやましいと思われること間違いなしだ。